特集

九州中央リハビリテーション学院　紹介

九州中央リハビリテーション学院　学院長
児玉　公道

チーム医療・福祉の一翼を担う、看護師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士を養成する、九州中央リハビリテーション学院

平素より九州中央リハビリテーション学院に対して、ご理解ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

学校法人「立志学園」九州中央リハビリテーション学院は「徳育・知育・体育」の教育理念のもと、感性豊かな学生を育てるとともに、高度専門職業人として資質向上を目指した医療人養成校であります。

ご存知のように、九州中央リハビリテーション学院（以下、学院）は、産業道路白川橋手前、本山三丁目に六年前産声を上げた若い学院です。平成十八年四月作業療法学科（昼間部・夜間部）四〇名と理学療法学科（昼間部）四〇名と理学療法学科（昼間部・夜間部）各四〇名、計一二〇名の学生を擁した四年制の高度専門士を養成する学院として開校しました。また平成二十一年度から新たに三年課程の看護学科四〇名が新設され、二十三年度には三期生が入学し全学科が揃いました。同時に二十三年度からは介護福祉学科四〇名も開設され、一層充実した新しい学院として歩み続けています。二十四年度から看護学科は定員を倍にして八〇名となり、計画目標は達成されます。これにより、全在学生は九六〇名となり、かなり大きな学院となります。

二十三年度の学院は、第一期生、第二期生に続いて第三期生が卒業し、社会人として世に送り出すことになります。国家試験の合格率は、第一期生は一〇〇％、第二期生は全国平均を一〇％上回る成績でした。また就職は全員が希望の医療施設に入社することができました。

開校当初から六年間、教職員は一丸となって教育活動と、学生の生活指導に当たってきました。教員は自らの専門分野を学生に教授するとともに、実習施設への巡回指導を精力的に行い、学生の良き相談相手にもなっています。その他、県や地方レベルにとどまらず、全国規模の研修会を開催して、専門教員としての技能向上に貢献しています。

一方、学生は学院生としての自覚と夢を持って勉学やクラブ活動に励んできました。これに続く三期生から六期生も先輩に続けと、勉学に打ち込んでいます。看護学科でも魁である第一期生が二年間の歩みを着実に行い、先輩として三期生を迎えています。創成期の学院は明るく生き生きした空気で満ちあふれています。

学院では、毎年度の活動を記録した〝年報〟も発行し、ホームページにアップしています。年報は一年間学院が行った諸々の活動を記録し報告するだけでなく、公にすることによって当学院の諸活動の実態を広く知っていただくとともに、関係者各位からのご忠告ご批判を仰ぐことで、自ら反省し一層充実した教育・研究活動ができるように計画を立て努力することを目的にしています。

二十三年度には新たに教職員の資質向上に向け、FD委員会を立ち上げ、この四月と七月には研修会を開催しました。第三回目の研修会は十月に開催する予定です。今後、年六回の計画で実施したいと考えています。

また、肥後医育振興会が開催している「熊本県医療人育成総合会議」にも積極的に参加して、他職種での人材育成の実際を学ばせて頂き、学院の教員の意識改革や教育内容の改善に役立てています。

今後も、一年一年しっかりと足を地につけて一歩一歩前進して行ける学院を目指していきたいと考えています。

今後とも本学院に対するご理解とご協力をお願い致しますとともに、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

最後になりましたが、皆様方のますますのご活躍を祈念し、ご挨拶と致します。

ホームページ：
http://www.kcr.ac.jp/index.php

財団からのお願い

―財団の活動充実と発展のために維持会員の更新と新規入会をお願いいたします―

（平成二十三年度加入者は未だ五四八名）

東日本大震災で被災にあわれた皆様ならびにご家族に心よりお見舞いを申し上げます。

熊本の医学教育は、日本で最も伝統ある歴史をもち、その歴史において北里柴三郎をはじめとして多くの医師、医学者、教育者が育ち、国内外で大きな貢献をしてきました。その背景のもとに、肥後医育振興会は、未来の医療を担う人材を多く育成することを理念として平成八年に設立されました。昨年から公益法人として再スタートして、医療人育成、県民の健康増進、地域医療・医学の振興、医学研究助成事業及び医学国際交流支援事業（外国人留学生奨学金）の助成対象者の拡充、生活情報紙「あれんじ」の医学・医療関連記事の執筆及び監修、「熊本県医療人育成総合会議」の開催など、熊本から全国へ、世界へ飛躍する医療人の育成と医学の発信を行うために活動しています。

東日本大震災は、九州を南北に二つ並